

## ご参考

2008 年 4 月 4 日

## インプレッサ WRX STI、ニュルブルクリンク 24 時間レースに参戦

富士重工業と、同社のモータースポーツ業務を統括するスバルテクニカインターナショナル（略称：STI）\*1 は、本年 5 月にドイツ ニュルブルクリンクサーキットで開催される「第 36 回 ADAC Zurich 24 時間レース（ニュルブルクリンク 24 時間レース）」に、インプレッサ WRX STI で参戦し、クラス 優勝を目指す。

ADAC Zurich 24 時間レースは、全長 25.378km にもおよぶコースを舞台に、欧州メーカー車を中心に毎年 200 台を越す車両が参戦する世界最大規模の耐久レースである。このレース への参戦は、「より愉しく、より安全に」というクルマづくりを目指す富士重工業にとって、安全面、信頼面などの重要な技術的ノウハウを蓄積できる恰好の機会であり、それらを今後の量産車の開発に活かすことなどを目的に、今回の参戦を決定した。

参戦車両は、インプレッサ WRX STI をベースに、富士重工業の技術部門が監修のもと製作。軽量化や安全装備など最小限の改造にとどめた量産車に近い状態で、SP6 クラス（排気量 3.0～3.5L、過給機率は 1.7 倍で換算）にエントリーする。

また、今回の参戦にあたって、スーパー耐久レースなどでレース運営に豊富なノウハウを持つ STI およびプローバ\*2 を中心に、チーム「SUBARU NBR\*3 CHALLENGE（スバル エヌビーアール チャレンジ）」を結成。チーム総監督には、STI 車両実験部長の辰己英治が就き、レース経験豊かな日本人プロ ドライバー 4 名で参戦する。

ニュルブルクリンクサーキットは、グランプリコースと別名オールドコースと呼ばれるノルドシュライフェとに分かれる。中でも、全長 20.832km を占めるオールドコースは、160 ヶ所を越えるコーナー、約 300m の高低差を持つ“世界一過酷なコース”として知られている。

同社では、1990 年代前半からこのオールドコースを、インプレッサをはじめとした車両開発のテストコースとして使用しており、ここで抽出した課題を克服することで、量産車のさらなる進化に活かしている。

なお、2005 年には、プローバチームが、当時のインプレッサ WRX STI で A6 クラスに参戦し、クラス 2 位（総合 14 位）を獲得している。

\*1 スバルテクニカインターナショナル(株)（代表：工藤一郎、東京都三鷹市）

\*2 (株)プローバ（代表：山本真一、神奈川県横浜市）

\*3 富士重工業で、ニュルブルクリンク オールドコースを指す通称

### < エントラント概要 >

エントラント名： チーム「SUBARU NBR CHALLENGE」

参戦車両： スバル インプレッサ WRX STI（GRB 型）  
[ 水平対向 4 気筒 EJ20 型 2.0L DOHC ターボ / SYMMETRICAL AWD  
サスペンション：フロント ストラット式、リヤ ダブルウィッシュボーン式 ]

車両製作： プローバ（監修 / 富士重工業）

チーム監督： 辰己英治（STI 車両実験部長）

ドライバー： 吉田寿博、松田秀士、服部尚貴、松田晃司